

コムギ赤さび病情報第1号

令和7年3月5日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

今後、感染に好適な気象条件が発生する可能性があります

1 発生予測

本病は、気温が12～20℃かつ葉面に水分があると感染可能です。2月1日から3月31日までに、日平均気温12℃以上かつ降雨があった日が4日以上あると多発する可能性があります。

これまでに、県内で日平均気温12℃以上かつ降雨があった日は概ね1日程度ですが、名古屋地方気象台2月27日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並みか多いと予想されていることから、今後、赤さび病の感染に好適な気象条件が発生する可能性があります。

本病は、主に前作の収穫後のこぼれ麦に感染して夏を越し、秋に播種されたコムギに感染します。そして夏胞子または葉身内で菌糸の形で越冬し、翌春の伝染源となります。このため、前年に発病が確認された地域では、特に注意しましょう。

2 防除対策

ほ場をよく確認し、発病が見られる場合は薬剤防除を実施しましょう。

止葉の発病程度が大きいほど減収割合が大きくなるため、茎立後から止葉抽出期までに1回と開花期に1回の防除が有効であるとされています。

なお、うどんこ病と同時防除する場合は、うどんこ病にも登録のある農薬を使用しましょう。

また、同一系統の剤の連用を避けるため、今後の赤かび病の防除を考慮して薬剤を選定しましょう。



図1 コムギ赤さび病の夏胞子堆



図2 コムギ赤さび病による茎葉の枯れ上がり